

伎舞歌森黒 りぶだ会存保

二〇一九年
二月一日号

今年の演目は19年ぶりの「ひらかな盛衰記」

せいすいき

黒森歌舞伎保存会 会長

菅井 儀一

平成三十一年の新春を迎え、黒森歌舞伎保存会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年、酒田まつり本祭りへ特別出演として「高田馬場十八番切」を披露し、酒田まつりに詰めかけた市内外の多くの方々へポーランド公演へのご寄付お願いも兼ねてPRを行ったところ、ごさいます。いよいよ今年の十一月に迫りましたポーランド公演に向けて保存会では、座、コミセン、酒田市と一体となって尽力していきたいと思っております。

さて、今年の演目は「ひらかな盛衰記」です。平成十二年以来、十九年ぶりの上演となる本作は、源氏の武将梶原景時一家の騒動の物語と、源

義経に滅ぼされた木曾義仲の遺児と忠臣たちの物語の二つのストーリーで綴る源平合戦の世界観を描いたものです。今回は「梶原館源太勘当の場」、「福嶋松右エ門内同裏手船中・同物見の松」の二幕を上演いたします。ご来場くださった皆様に喜んでいただけるよう座員一同懸命に稽古を重ねておりますので、どうかご声援いただきますようお願いいたします。

また、例年好評の少年歌舞伎

は、「青砥稿花紅彩画」より稲瀬川勢揃いの場を上演いたします。当日は子どもたちの熱演にもご期待下さい。

正月公演の頃は例年厳しい寒さが予想されますが、二月十五日、十七日は会員の皆様からみれば演舞場にお越しただき、役者、裏方だけでなく、歌舞伎を支えてきた黒森地区の皆様にも惜しみない拍手を賜りますようお願い申し上げます。



平成 30 年 5 月 20 日の酒田まつり本祭りへ特別出演



昨年の酒田公演より少年歌舞伎

演目紹介

「ひらかな盛衰記」

源氏の武将梶原景時一家の騒動の物語と、義経に滅ぼされた木曾義仲の遺児と忠臣たちの物語の二つのストーリーで綴る源平合戦の世界観を描いたものです。

〈主な登場人物〉

- 梶原景時** (かじわらかげとき) 源義経の家臣。木曾義仲と敵対
- 源太景季** (げんたかげすえ) 景時の長男
- 平次景高** (へいじかげたか) 景時の次男
- 延寿** (えんじゆ) 景時の妻
- 千鳥** (ちどり) 源太と恋仲の腰元
- 権四郎** (こんしろう) 大阪の福嶋に住む老船頭
- およし** 権四郎の娘
- 榎松** (つちまづ) およしの子
- お筆** (おひで) 榎松を取り違えた相手
- 駒若** (こまわか) 榎松と取り違えられた義仲の子
- 松右工門** (まつえもん) およしの再婚相手。実は義仲の家臣
- 樋口次郎兼光** (ひぐちしろうかねみつ) 義仲の家臣
- 畠山重忠** (はたけやましげただ) 源頼朝の家臣。義仲と敵対

一幕目 梶原館 源太勘当の場

源氏の武将、梶原景時一家の物語。宇治川の合戦で佐々木高綱に先陣争いの遅れをとった景時の長男・源太景季だったが、実は高綱に命を助けられた恩に報いるため功名を譲ったのだったが、そのことを腹黒い弟平次景高にのしられたため、源太は武士の恥と思い切腹しようとする。母延寿はこれを止め、源太にボロ布を着せ恋仲の腰元・千鳥と共に勘当する。

二幕目 福嶋松右工門内 同裏手船中

舞台は大阪。福嶋の老船頭、権四郎の家では娘・およしの亡くなった夫の三回忌が営まれている。近所の人が孫の榎松が別人のようだと言うので権四郎は「大津の宿に泊まっ



平成12年の正月公演より「福嶋松右工門内同裏手船中」

たところ、深夜に捕物騒ぎがあり伏見まで逃げたが、隣部屋の子と取り違えた」という。そんな中、お筆という若い女が大津の宿で榎松を取り違えた相手と言いつねてきた。ところが、捕物騒ぎの騒動で榎松は誤って殺され、さらに権四郎の家に居るのは大切な若君・駒若であり返して欲しいと頼む。権四郎は誰かが榎松を大事に育ててくれているであろうから、この子も大事に育ててきたのにと怒り「孫が敵じゃ、首にして戻してやるわ」と激昂する。ところが納戸を開けると、

およしの再婚相手・松右工門が駒若を抱いて座っていた。松右工門は権四郎を説得したがうまくいかず、仕方なくこの子は木曾義仲の子・駒若君、自分は義仲の家臣・樋口次郎兼光と本名を明かした。さらに樋口(＝松右工門)は、主君義仲の仇・源義経に復讐しようと思ったが、うまく敵を討ち取るためには計略が必要と考え、権四郎の家に婿入りして権四郎が持つ操船方法「逆櫓」を使い義経を討とうと考えていたと話す。

た。樋口が権四郎はどこかとおよしに尋ねるが、どこかへ出かけてしまったと言う。権四郎が榎松の件を恨みに思い、役所へ訴えたかと樋口は悔しがらる。そこへ権四郎が畠山重忠を案内してやってきた。権四郎は榎松(駒若)が、亡夫の子で樋口の子ではないと重忠に訴えて助命の許しを得たと語る。樋口は若君の無事を知り権四郎に感謝し、重忠の温情に報いるため捕縛されていた。

納得した権四郎であったが、そんな中、三人の船頭が逆櫓を教わるためにやってきた。船を沖に漕ぎ出していく中、突然船頭たちが樋口に打ちかかってきた。梶原景時の放った刺客であった。しかし「義仲四天王」随一と言われる樋口にはかなわず、三人とも投げ殺されてしまった。

同物見の松

樋口が門口の松に登って周囲を見ると、樋口を捕縛するための篝火が燃えてい



平成12年の正月公演より「福嶋松右工門内同裏手船中」

今年の押絵は「ハイケメン」

毎年楽しみにしているファンも多い押絵。今年は「ひらかな盛衰記」の「源太勘当の場」より鎌倉一の美男子・梶原源太景季のデザインです。正月公演と酒田公演において限定80枚で販売予定です。お問い合わせ・予約申し込みは黒森コミュニティセンター(92・2255)まで。



入りみ 4,000円
緑紙の額 2,800円

正月公演にあわせて、酒田市役所1階展示スペースにおいて《黒森歌舞伎衣裳展》を開催しています。ぜひご覧ください。



※入場無料。市役所開庁時間のみ入場可。2月14日まで(最終日は15時まで)。

黒森歌舞伎の一年

(これまでの活動と今後の予定)

◆平成三十年

3月11日
【大夫振舞】神饌の儀が行われ、演目は「ひらかな盛衰記」に決まりました。今回の選者は、一座の星川慶祐さんです



4月29日

【春例大祭】黒森地区の春祭りが盛大に行われ、地域の子どもたちが演目紹介の山車行列として村中を練り歩いた後、神宿渡しを行いました。

8月11日

【虫干し】衣裳をすべて出して、神社境内いっぱいに広げて虫干しをしました。

8月16日

【お面開き】神霊が宿るとされる翁面と三番叟のお面を箱から出して、神事を行いました。

9月初め

【役割】正月公演の配役を決めました。
【本読み】正月公演の台本を読み合わせしました。

1月初旬 けいこ始まり

◆平成三十一年

1月5日

【地固め】本格的な活動の開始です。今後の稽古日程が発表されました。

2月3日

【節分】豆まきをします。

【おさらい】通し稽古を行い、動きやセリフを確認します。

2月11日

【花道づくり】地域の方々が、神社境内へ花道を組み立てます。

2月14日

【寄せ太鼓】神社境内で、地域の子どもたちが大入り祈願と歌舞伎の宣伝のために、太鼓を打ち鳴らします。

【あご別れ】公演の最終確認と成功祈願を行います。

2月15日・17日

【正月公演】演舞場で2日間にわたり、公演を行います。

2月18日

【勘定】公演の経費を精算します。

3月3日

【酒田公演】酒田市民会館で公演します。

3月10日

【大夫振舞】来年の演目を決める神饌の儀を行います。



ます席・特製弁当を販売します

ます席で黒森歌舞伎をゆつくり楽しみませんか？ ますは四人分で、特製歌舞伎弁当や演目の解説本も付いて、湯たんぽ、ひざ掛けも貸し出します。費用は、ます一万円（当日持参）で、一日につき八ますです。

また、好評の特製歌舞伎弁当も販売します。価格は九百円（当日持参）で、一日につき三十食（要事前予約）です。

●ます席・特製弁当の申し込み
黒森コミュニティセンター
電話・0234-9212255

平成 31 年正月公演 2月15日(金)・17日(日)

会場:黒森日枝神社境内

10:00 ~ 少年太鼓、神事、神楽、三番叟

12:00 ~ 少年歌舞伎『青砥稿花紅彩画』より
あおとぞうしはなのにしきえ
「稲瀬川勢揃いの場」

13:00 ~ 本狂言『ひらかな盛衰記』より
せいすいき
「梶原館源太勘当の場」
「福嶋松右エ門内同裏手船中・同物見の松」

(16:00 頃終了予定)

※屋外での観覧ですので、防寒対策が必要です。

平成 31 年酒田公演 3月3日(日)

会場:酒田市民会館「希望ホール」

12:00 ~ 少年太鼓

12:30 ~ 少年歌舞伎『青砥稿花紅彩画』より
あおとぞうしはなのにしきえ
「稲瀬川勢揃いの場」

13:30 ~ 本狂言『ひらかな盛衰記』より
せいすいき
「梶原館源太勘当の場」
「福嶋松右エ門内同裏手船中・同物見の松」

(16:30 頃終了予定)

【入場券】前売り券 500 円 当日券 700 円（未就学児は無料）

前売り券は、酒田市総合文化センター事務室、酒田市役所地下売店、酒田市民会館「希望ホール」事務室、八幡タウンセンター、ひらたタウンセンター、松山総合支所、黒森コミュニティセンターで取り扱います。

小松屋特製

『黒森歌舞伎まんじゅう』

今年も正月公演で黒森歌舞伎まんじゅうを販売します。1日につき100箱、予約限定販売です。歌舞伎鑑賞のお供に、お土産にぜひどうぞ！

●お問い合わせ・予約申し込み
黒森コミュニティセンター
電話・0234-9212255



★要事前予約★ 6個入 800円 (税込)

※お品物は当日会場でお渡しします

●黒森歌舞伎保存会事務局●

〒998-8540
山形県酒田市本町2-2-45
酒田市教育委員会 社会教育文化課内
電話・0234-24-2994
FAX・0234-23-2257
Eメール・bunkazai@city.sakata.lg.jp